

SOWER

ソア=種まく人
No.7
December 1995
財団法人
日本聖書協会

特集 躍動する中国



神のことば
すべての人の
希望

聖書

親しみやすく 格調の高い 最新の翻訳
新共同訳

クリスマスに あなたからの特別な贈り物

いつでも、どこにでも持って行ける
ハーフボリュームバイブル
旧約聖書続編つき
新登場！

好評
発売中！



ハーフボリュームバイブル 旧約聖書続編つき

中型聖書

目録番号：NI34DCHV

定価：2,600円（税込）

装丁：B6判 ビニールクロス装

軟表紙 ジャケット掛け

既刊：ハーフボリュームバイブル NI34HV

定価：2,200円（税込）

ハーフボリュームバイブル 白表紙 NI34HV（白）

定価：2,200円（税込）



世界初 聖書のCD 全巻完成！

全巻完成記念特別価格 1995.11.1～1996.10.31

聖書全巻セット 特別価格：136,000円（税込）

全巻収納「木製ラック」プレゼント

旧約聖書セット 特別価格：102,000円（税込）

『イエス・キリストの言葉 50選』CD1巻プレゼント

新約聖書セット 特別価格：34,000円（税込）

『詩編抄』CD1巻プレゼント

（これは聖書の朗読です。BGM等は入っておりません。）

新共同訳カセット

特別価格 1995.11.1～1996.10.31

新約聖書セット 特別価格：24,500円（税込）

（これは聖書の朗読です。BGM等は入っておりません。）

- ご注文はお近くのキリスト教専門書店、または全国の書店へ（直接当協会にご注文戴く場合、別途に荷送料がかかります）
- カタログ請求、お問い合わせは下記まで

財団法人 日本聖書協会

〒104 東京都中央区銀座 4-5-1

電話 03-3567-1987（ダイヤルイン） FAX 03-3567-4436

SOWER
ソア No.7

1995年12月1日発行[年2回6月・12月発行]
発行・財団法人 日本聖書協会 〒104 東京都中央区銀座 4-5-1 電話 03-3567-1980 振替 00160-2-18410



この雑誌は
エコマーク認定の
再生紙を
使用しています



変貌の山ヘルモン

かぐわしい油が頭に注がれ・・・
ヘルモンにおく露のように
シオンの山々に滴り落ちる。

詩編 一三三

ヘルモン山は標高二八四メートル、
一年の三分の二は雪に覆われています。
その雪解け水が伏流水となり、麓にい
くつもの美しい泉となつてわき出し、
流れ集まつてヨルダン川となります。
詩編に歌われているとおり、今やこの
水はイスラエル全土を潤しています。
最後のエルサレム入りを前にして、
祈るためにヘルモン山に登られたキリ
ストは、連れてきた三人の弟子たちの
前で光り眩ゆく輝き始められました。
地上に亡骸を残さず天に昇つていつた
モーセとエリヤがやつて来て、エルサ
レムで起こるキリストの受難と復活に
ついて語り合つていたのでした。
ヘルモンとは、ヘブライ語で「聖な
る捧げ物」という意味だそうです。

巻 頭 聖 句

天地は滅びるが、わたしの言葉は 決して滅びない。

(マタイによる福音書 24章35節)

「人は皆、草のようで、その華やかさはすべて、草の花のようだ。
草は枯れ、花は散る。」(ペトロの手紙一 1:24) 人は皆頼りな
い存在だからこそ無意識的に確かな支えを追い求めるのです。金
とか力とか、血のつながりとか組織とか。ちょうど朝顔のつるが
支柱にすがりつくように……。でも根のない支柱は風で倒れ、朝
顔も倒れる。会社の倒産、戦争や死別とか、探し求めてきた支え
がどれ程もろかったかも、いやという程味わってきました。山の
岸壁をほう鳥かすらは、暴風の中にも倒れません。それは自らの
力というより、つかまっている岩が不動だからなのです。
ところで、私たちの周りに絶対に変わらないもの、動かないもの
があるのでしょうか。「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して
滅びない。」誤ることのない神の言葉とそのまことに、私たちの
理性も意志もしっかりと結ばれ、己のすべてをそこにかける信仰。
アーメン。それは確かな支えです。

平山高明

カトリック大分教区 司教

CONTENTS

Sower
No.7
1995

2 躍動する中国

特集
広がりゆくキリスト教と聖書
中国キリスト教の歩みと
聖書翻訳の歴史 川島 二郎

9 グッドウィル・ブック米国に返還

総主筆室 佐藤 邦宏

10 エッセー⑦ 金 櫻 「聖書と私」

12 歴史探考 銀座のバイブル・ハウス 秋山 憲児

13 聖書図書館蔵書シリーズ⑧ ゴープル訳「摩太福音書」

躍動する中国

広がりゆくキリスト教と聖書

中国の南京に聖書の印刷工場が建設されたのは一九八七年である。その建設のために聖書協会世界連盟（UBS）は世界中で募金をし、日本のキリスト教も協力をして貢献した。それからわずか八年たらずで、今年六月には旧新約聖書の印刷が一千万冊に達した。その記念式典に、日本から製紙、印刷、製本など聖書の製作に携わる人々を中心に、聖書協会の理事、スタッフ一行二十人が出席した。

活力あふれる町・人々
近代化を急ぐ中国

最初に降り立った北京の町は、いたるところ建策中のビルが目立ち、労働者があふれている。地方からの出稼ぎが多いそうだ。これは上海でも同じで、一日二十四時間の突貫工事をして完成を急いでいる大きなデパートもある。ここ数年、外国からの資本によって開発が進められていると聞いていたが、すごい勢いだ。



上海の町は地方から来た労働者も多く、活気にあふれている。写真提供/鈴木文夫

「百聞は一見に如かず」……1987年に完成した中国・南京の愛徳印刷廠は、この6月に中国語聖書1,000万冊を出版した。7月25日には記念式典が催されJBSからも出席し、中国の教会、街並みを見る機会を得た。今回の特集は、躍動する現代中国の息吹をお伝えする。合わせて中国のキリスト教と聖書の翻訳の歴史をご紹介します。しばし中国の教会とクリスチャンへ思いを馳せたい。

編集部

いくにちがいない。

人間的な生き方を求めて
急激に広がるキリスト教

七月二十三日、私たちは北京の崇文門堂基督教会の日曜礼拝に出席した。千五百人もの出席者で会堂はぎっしり埋まり、入りきれない人々が百人くらいの会堂の外で礼拝を守っている。日本の教会と同じように女性の信者の出席が多く、千五百人の歌う讃美歌は迫力がある。私たち一行が会衆に紹介され、佐藤総主事が挨拶した。その中で、先の戦争で日本が中国の人々に筆舌に尽くせない苦しみを与えたこと、そして日本のクリスチャンが戦争を止めることができなかったことをお詫びした。ちょうど戦後五十年に当たった年に、直接中国の人々に伝える良い機会を与えられたと思う。

中国は今、キリスト教がすごい勢いで広がっている。文化大革命の時代はキリスト教は迫害にあい、礼拝や集会は禁止され、教会は閉鎖された。牧師は投獄されたり、強制労働に従事させられたりした。有力な信徒も農村に追放されたという。信徒の持っていた聖書や讃美歌も取り上げられ、焼かれてしまった。しかし文革後は宗教政策が大きく変わり、七九年には公に礼拝を守ることができるようになった。没収されていた教会堂も返還された。八二年の新憲法には信教の自由が謳われてい

北京の町で圧倒されるのは自転車の洪水である。北京の人口は九百五十万ということだが、八百万台の自転車があるという。まさに市民の足だ。マイカーはまだ高根の花だそうである。そんな状況だから、当然事故も多いらしい。朝、バスの中から事故を目撃した。工場で急ぐ女性だろうか、隣を走る自転車と接触して倒れ、ハンドルにかけていたお弁当が飛び散ってしまった。なんとその中身はおかゆであった。庶民の生活をかいま見た気がした。

歩道に山のように積み上げたすいかを売っているのがあちこちに見られる。ラグビーボールの形をしたものが多い。夏の果物の代表なのだろう、どこのレストランでもデザートにすいかが出た。一個五十円くらいで買えるそうだ。日本人の感覚では確かに安い。しかし中国のサラリーマンの平均月収は、日本の商社に勤務する中国人社員の話によると、およそ千八百元（約二万円、一元＝約十一円）農民は八百元（約八千円）ということだから、そんなに安くはないのかもしれない。最近はいんフレで、昨年の物価上昇率は二十四パーセントということだ。給与生活者は昇給が追いつかず、生活は苦しい。開放政策によって利益を得る人と、そうでない人との所得の格差で、貧富の差を大きくしているという。

現在十二億もの人口をかかえる中国は、一九七九年以来人口の増加率を一パーセント以下に抑えるために「一人っ子政策」をとり、



歩道にせりだした店や飲物などを売る人。北京市内。写真提供/鈴木文夫

「晩婚晩育」を奨励している。子供の教育にも力が入られており、小学校の就学率は八十四パーセントと高い。先日見たテレビの報道によると、一人一台のコンピュータを使って授業を受ける小学生がいる一方、貧しい農村の教室で学ぶ生徒もいる。教育においても格差が大きく広大な中国では全国を同じレベルにするのは並大抵のことではないようだ。

近代化を急ピッチで進めている中国は、エネルギーにあふれ、まだまだ計り知れない力を秘めているように見えた。そして筆者の胸を打ったのは、中国の人々は、長い歴史と、自分たちの文化に対する強い誇りを持っているということだ。将来も独自の発展を遂げて

る。中国基督教三自愛国運動（一九五〇年創立、キリスト教の宣教を外国の力を借りないで、自分たちでやろうとする運動。三自とは自義・自治・自伝）の働きのおかげで、八〇年に超教派のプロテスタント教会の全国的組織の中国基督教協会（CCC）が設立された。現在はプロテスタント教会にさまざまな教派は存在していない。三自愛国運動とCCCによって愛国、愛教運動が推進され、教会は中国各地で復活し始めた。この十年間の成長は目を見張るものがある。

現在プロテスタントの信徒数は八百万から一千万人、カトリックが四百万から五百万人という。革命以前はプロテスタントは七万人にすぎなかった。広大な中国では正確な数字はつかめないが、北京だけ見てもここ数年クリスチャンの数は急激に増え、一年に千人の人々が洗礼を受けるという。

教会は、牧師のいる教会が全国に約九千にまで増え、そのほかに約三万の「家の教会」と呼ばれる集会所がある。「家の教会」は文革の間に形成されたようだ。教会を失った信徒たちが、有力な信徒の家で集会をもっていた。聖書を取り上げられた信徒たちは、聖句を暗唱して信仰を守ったという。

「家の教会」は初めは十人くらいの小さな集会だが、現在は五百人以上にまで増えているところも珍しくなく、千人から二千人というところもある。ここには牧師がいないので、巡回の牧師が数か月に一度回ってきて洗礼を

授けるといふ。

文革の時代、神学校が閉鎖され牧師が養成されなかった。それ以前も四五以降、組織的な神学教育はなされていず、四十年のブランクがあるという。現在、牧師のほとんどが七十歳代から八十歳代の老齢である。牧師の養成が急がれている。

革命前は一つしかなかった神学校は現在十三まで増えた。中でも、かつて神学教育の中心であった南京にある金陵協和神学院は最もレベルの高い神学校である（文革時代は紅衛兵の本部にされていた）。五百人の卒業生を

崇文門堂基督教の日曜礼拝は千五百人もの出席者が、熱い祈りを捧げている。



一千万冊聖書印刷を達成

南京の愛徳印刷所の聖書印刷一千万冊達成の記念式典が七月二十五日、世界二十か国の聖書協会関係者と日本から一行二十人が参加して行われた。八七年の創立以来わずか八年で一千万冊を達成したのは驚異的である。式典に参加した人々の顔は皆喜びで輝いていた。

この印刷所の設立は世界中のクリスチャンが、聖書が不足している中国のクリスチャンに聖書を贈りたいという願いが実ったものだ。印刷所は愛徳基金会と聖書協会世界連盟（UBS）の合併事業である。愛徳基金会は中国のクリスチャンによって設立された民間の福祉団体である。UBSはこの印刷所の建設のために七百五十万ドル（当時の換算で十億四千万円）の資金を、世界中の聖書協会で展開した募金によって支援した。日本では八六年から八八年にかけて一億円募金を行って協力を呼びかけ、およそ九千万円の募金が集まった。そしてUBSへ六十二万五千ドルを送金することができた。

当時のUBSアジア・太平洋地区総主事のチャン・チヨイ氏はこの印刷所が生まれるきっかけになった、八五年一月の中国基督教協会の韓文藻氏との会話を話してくれた。

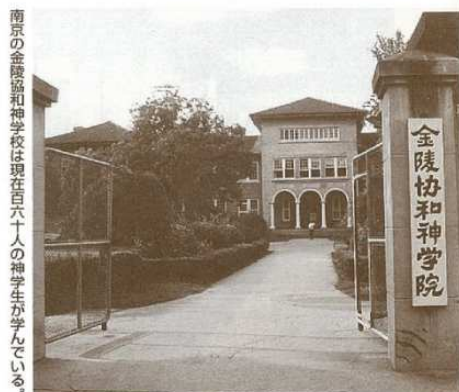
八四年にアメリカのキリスト教団体の人が中国に来て、オフセット印刷機をCCCに贈る約束をしたのだが、まだ実現されていない

送り出し、現在百六十人の学生がいるが、三分の一は女性だそう。地方の小さい神学校や聖書学校では半数以上が女性だという。女性の聖職者は認められているが、受け入れない教会もあるらしい。しかし伝道者として広く活躍しているという。

南京の神学校では信徒のリーダー養成のために通信教育も行っており、三千人が受講している。「現在最も重要なことは正式な神学教育とともに、信徒のリーダーの訓練をすることです。これがクリスチャンを霊的に向上させる唯一の方法なのです」とCCCの丁光訓議長は述べている。

なぜ今、急激にキリスト教が広がっているのだろうか。UBSアジア・太平洋地区の蔡仁理総主事は「四十年間続けざまの唯物主義の理論に対して、人々は飽きて、何か新しいことを聞きたい、生活に関係ある力のある言葉を聞きたい」と思っているのではないだろうか。クリスチャンの愛のあかし、生活のあかしは大きな影響力を持っていると思います。そして奇跡に対するあこがれがあります。それに彼らの心の空洞を満たす人間的な新しい教えがあるからだと思います」と語る。

最近ではノンクリスチャンで聖書を読む人が増えているが、ことに知識人で聖書に関心をもつ人が増えているという。彼らは信仰を持っても洗礼を受けることはしないし、教会へも行かない「カルチャー・クリスチャン」である。しかし彼らは教会の良い理解者である



南京の金陵協和神学院は現在百六十人の神学生が学んでいる。

ということを韓氏から聞いた時、チャン・チヨイ氏はオフセット印刷機くらいでなく、聖書の印刷工場を作ってはどうかと提案した。その時韓氏はげんごうな顔をしていたという。なぜその時こういう言葉が出てきたのかチャン・チヨイ氏自身分からない、と当時を振り返る。まだUBSの中で、何もこのことは決議されていないわけではなかった。同氏はこれが可能かどうか分からないが、神のなされることなら実現すると思ったという。

すぐにCCCとUBSの話合いがもたれ、印刷工場建設の構想はトントン拍子に実現の方向に進んだ。三自愛国運動は外国からの援助は受けられない方針であるが、愛徳基金会と提携すれば設立は可能であるということで、この問題はクリアーできた。これを受けてUB



会堂に入りきれず外で礼拝を守る人々。崇文門堂基督教会。

と丁議長は言う。

過去十年間に、バルトやモルトマンといった西欧の神学者がこれらの知識人によって中国語に翻訳され、一般の出版社から出版されている。南京の神学校の図書館には三百冊のノンクリスチャンの学者によるキリスト教関係の本があるという。



変じた聖書を受け取り教会まで運ぶ。南京市内で、写真提供 UBS

Sは八六年から世界中の聖書協会で「中国の聖書印刷所建設募金」を開始した。わずか二年あまりの期間で七百五十万ドルが集まった。CCCの丁議長は式典の後もたれたレセプションで、愛徳印刷所は奇跡だと語った。一千万冊の聖書を印刷するというビジョンを中国のクリスチャンは持てなかつたという。それがUBSを通じて世界中のクリスチャンの協力で実現した。

現在この印刷所では年間二百三十万冊（九四年）の聖書が印刷されているが、これはすべて教会からの注文によるものだ。中国では聖書の印刷も他の印刷物と同じように、政府の印刷許可を取らなければならない。用紙の割り当てなどのためだそう。普通、許可が下りるのは申請した数より少ないという。今年の秋には新しい印刷機械が入り、年間四、五百万冊の印刷が可能になるそう。また今年から点字の印刷機が入り、点字聖

書の製作も始まった。そのほか八種の少数民族の聖書、讃美歌、神学関係の本も印刷されている。讃美歌の印刷は年間百万冊にも上る。聖書は一九一九年の「和合訳」が現在も用いられているが、八九年には簡体字のものも印刷されるようになり、現在九十五パーセントが簡体字である。「神」の訳語の異なる「神版」と「上帝版」の二種が出版されている。UBSは聖書用紙代を援助している。一冊あたりの用紙代は一ドル必要だ。九四年には二百五十万ドルを援助し、今年は三百万ドルを援助することになっている。大型聖書が九・五元（約百円）で売られているが、人々が買える値段にするために、UBSの援助が必要とされているわけだ。

聖書は全国の三十五か所の配送センターを通じて教会に配布され、「家の教会」にも同じように頒布されている。一般の書店では売られていないが、CCCは一般の書店で聖書を販売できるよう、現在政府と交渉を重ねている。

これまで密輸という手段で外国から聖書が持ち込まれることもあったが、現在、もうその必要はなくなっているという。

南京の町は盆地になっていて、夏は猛烈な暑さだ。プラタナスやヒマヤ杉の木の並木の緑が道を覆い、強い日差しを避けて、町を行く人々に木陰を提供している。美しい南京で最後に訪れたのは「虐殺記念館」であつ



南京の愛徳印刷所は二五五人の従業員が働いており若い工員が多い。

た。一九三七年、日中戦争の時、南京で日本軍が三十万人もの中国人を虐殺したという歴史的な出来事を、写真や展示で示している。新聞などで知っていたが、実際にその場に立ち、当時の現場の写真をみると戦慄を覚える。展示はその出来事を忘れてはいけないと訴えているようだ。

中国語の聖書の不足は、広がっていくキリスト教に比例してまだまだ続き、聖書の増刷がますます必要となっていくだろう。UBSはこの意義ある事業を継続していくために、世界中のクリスチャンの協力を願っている。

中国キリスト教の歩みと聖書翻訳の歴史

キリスト教史学会監事

川島第二郎

●唐代 中国のキリスト教は、七世紀唐の太宗の貞観九年（六三五年）に阿羅本（オロボン）がササン朝ペルシアから首都長安（現・西安）に来て、景教（ネストリウス派）を伝えたことに始まる。太宗は三年後これを公認し、長安に波斬寺（後に大秦寺）の建立を許した。その後も概ね皇帝に保護されてかなりの隆盛を見、景教教典とともに聖書の一部も翻訳されたらしいが、道教を重んじた武宗が会昌五年（八四五年）「排仏の詔」を出したため、景教も壊滅的打撃を受け、大方の信徒は改宗し一部は国外に逃亡した。

●元代 カトリック伝道は元代になってフランシスコ会モンテ・コルビーノによって始められた。彼は一二九四年大都（北京）に着き、約三十年の間他教の妨害などと戦いながら三つの教会を建て、数千を超える信徒を作り、蒙古人のために新約と詩

編をモンゴル語に訳すなどしてカトリック伝道の土台を据えたが、一三八八年元の滅亡のために中絶した。次の明は中華民族的国粹主義をとって西方世界の文物を排斥したからである。

●明代 明朝へのカトリック伝道を担ったのは、一五三四年パリに創設されたイエズス会であった。この会はカトリック教会の刷新とともに伝道第一主義を唱え、アジア、アフリカの植民地住民のキリスト教的教化を図っていたポルトガルの政策と一致するため、その貿易船に便乗して東アジアに来ることになった。中国伝道を意図したフランシスコ・ザビエルは、日本布教後の一五五二年広州港外まで到達したが熱病で亡くなった。彼の遺志を継ぎ、一五七九年にミカエル・ルツジェーリ、一五八二年にマテオ・リッチがマカオに来て三年後広東肇慶府の伝道許可を得た。リッチは更に韶州、南昌、南

京と本拠地を移し、遂に北京入りを許され一六〇五年に教会堂を建てた。

この間彼らは中国知識人のヨーロッパの自然科学に寄せる関心を活用したり、宣教師の服装を儒学者風にするなど中国社会の風潮を配慮しながら伝道を進めた。リッチは官吏、学者などの中国知識人への伝道を重視し、西洋学術の紹介が皇帝はじめ彼らの信頼を得る手段と考え、イエズス会の伝道方針とした。彼は明朝高官の徐光啓、李之藻らの入信者を得て、多くの教義書とともに地理、幾何学、天文曆学、農学、機械工学、医学、音楽など広範な分野の学術書を作り、実社会の各分野の技術向上にも役立て、順調な布教成果をあげたが、多くの信徒を獲得できなかった。一六六四年に明は滅亡した。

●清代 清朝になっても明と同様西洋学術を重視し、世祖順治帝は一六四五年宣教師に作らせた曆を採用

し、また壮大な教会堂の建築を援助したので入信者が急増した。世祖の没後外国の植民地計画を警戒する保守派は、一六六一年、幼い康熙帝にキリスト教禁止令を出させ、会堂の破壊と信徒官吏の罷免を行い、イエズス会及び明末に入華したドミニコ会、フランシスコ会宣教師全員を拘禁して広州へ護送した。康熙帝成人後は再び西洋曆法を採用し、宣教師は宮廷で重用され信徒官吏も復職できたが、禁令が解かれたのは軍事外交面でも宣教師の貢献が認められた一七九二年であった。だが、程なく典札問題（儒教の祭天、崇祖、祀礼の儀礼を許容するかどうかが起こり、柔軟に対処してきたイエズス会に反対する後来の会派との論争は、ローマ教皇庁が典札否定の最終的裁定を下したため、一七三三年、雍正帝は「禁教の詔」を発し、宮廷で学問芸術に携わる宣教師以外は国外追放、各地の三百に及ぶ教会堂は破壊か転用、三十万の信徒は棄教という厳しい処置を取った。

明清時代のカトリックの聖書翻訳は、ラテン語聖書の尊重と礼典重視のため教書に引用される聖句の翻訳以外は極めて少ない。十八世紀初頭のバリ宣教会バセによる「四史攷編

道光七年孟夏重鐫

神天聖書

載舊遺詔書
兼新遺詔書俱從本文譯述
英華書院藏版

モリソン・ミルン訳「神天聖書」一八七七年版

ロバート・モリソン



（四福音書を総合したもの）及び「使徒行」赫伯（ヘブル）一章」の部分訳（これは後にモリソンらに参照された）と、十八世紀後半のイエズス会士で宮廷通訳だったボアロによる旧新約の大部分の主要書訳だけでなく、ラテン語からの訳稿本である。十九世紀になってプロテスタント伝道は、禁教期の一八〇七年に英国ロンドン伝道会ロバート・モリソンが広州に来ることで始められた。将来の伝道に備えた英華辞書の編纂と中国語聖書の翻訳を任務とした彼は、東インド会社通訳を兼務する傍ら仕事に励み、一八一三年来華したウィリアム・ミルンの協力を得て、翌年『新遺詔書』を完成した。また一五一年に『英華事典』を、一三三年にミルンと『舊遺詔書』を完成、新旧合

せて『神天聖書』として刊行した。これは三八年メドハーストラによって改訂された。ミルンは一五年より英領マラッカに移り文書伝道と印刷活動を担当する一方、学校を作り本格的なミッション・カレッジ「英華書院」に発展させて、ともにプロテスタント伝道の基礎を固めた。

●近・現代 アヘン戦争後一八四二年に結ばれた南京条約は五開港場に教会設立を許すだけだったが、アロー号事件後の天津（一八五八年）北京（一八六〇年）両条約によりキリスト教伝道における制限が撤廃され、欧米列強の進出に伴い中国伝道は飛躍的な発展期に入った。反面さまざまな問題が引き起こされた。一八五一年から十五年続いた太平天国はキリスト教の教義を取り入れた結

社による反乱であった。洪秀全はミルンの弟子の中国人伝道者梁阿発の影響を受け、兵士にキツツラフ訳（一八四〇）からの独自訳聖書を与えた。カトリック、プロテスタントともに教勢は大きく発展し、宣教師は十九世紀末には概数で前者が七百五十人、後者千三百人、信徒数は七十万と八万人であった。ともに布教に有効なキリスト教主義学校の設立経営に力を入れたが、一九〇五年科挙制度の廃止によって急速な発展を見た。医療伝道については一八三八年ピーター・パーカーの「中国医療伝道会」創設によってプロテスタントがより大規模な医療事業を展開させた。カトリックは診療所普及の方針を僻地にまで及ぼし、孤児院、養老院の経営にも努めた。

一方、一八九九年の義和団事件に代表される反キリスト教運動も少なからず起こった。それはキリスト教が帝国主義勢力の代表のように民衆に思われたからである。この事件で犠牲となった宣教師はおよそ二百五十人、信徒は約三万二千二人であった。また二十世紀になってキリスト教主義学校の教育権を外国人ミッションから取り戻す、いわゆる「教権回収運動」が起こり、これと前後し

てプロテスタント教会においては「本色教会運動」が広がり中国教会としての固有性を主張するようになった。聖書翻訳は聖書を信仰の生命線とするプロテスタントの時代になって本格的な展開がなされた。主なものを挙げると、①「神天聖書」と同じ頃にセランボールで作られたバプテスト派の「聖經」（一八二二年）。②南京条約後の宣教師会議から生まれた代表翻訳委員会の「代表訳」（一八五四年）。この翻訳の新約全書完成を前に「The Good News Bible」を「上帝と神」「神と霊」のどちらに訳すかという「用語問題」が起こり、英米の宣教師が分裂した。③後者を採用した米宣教師らによる原文に忠実な「ブリッジマン・カルバートソン訳」（一八六二年）。以上は文理（古典文体）訳のため、浅文理（平易な文語）訳、官話（標準語）訳が求められた。前者には④「グリフス・ジョンズ訳」（一九〇五年）と⑤「エレンシェフスキー訳」（一九〇二年）。後者には⑥「北京官話委員会訳」（一八七八年）と⑦「現在も広く使われている官話和合訳」（一九一九年）などがある。この他に多数の各地方言訳が作られた。

グッドウィル・ブック米国に返還

返還式に出席して 佐藤邦宏



（前列左から）佐藤総主事夫妻、ハベッカーABS総主事、羽田ニューヨーク総領事夫妻、ハベッカー夫人、（後列左から）大宮理事、ウッドABS理事長

一九九五年六月七日（水）午後七時より、ニューヨーク市エセックスハウス ホテル・ニコッで「グッドウィル・ブック」の返還式が行われました。戦後、失意の中にあった日本人に、数百万冊の新約聖書が贈られました。そのための募金に尽した。当時の、在米日系人を含む米国人たちのサインを集めた巨大なスクラップブック、それが「グッドウィル・ブック」です。日本に保存されていた上下二巻のうち、上巻を戦後五十年を記念して、贈り主であるアメリカ聖書協会（ABS）に返還しようというものです。

レセプションは定刻に、ABSの主催で開催されました。日本聖書協会（JBS）から大宮理事、佐藤が夫婦で出席しました。約百五十名に上るゲストの中には、丸山俊二国連大使、羽田吉夫ニューヨーク総領事ご夫妻、郷原悟領事ご夫妻、さらに在米日系教会の牧師、信徒の皆さん、企業代表者の方々の顔も見えます。

返還式はカークランドABS会長の司会で始まり、ウッド理事長の歓迎の言葉、羽田総領事のご挨拶などに続いて、私は、「グッドウィル・ブック」贈呈の言葉を以下のように述べました。

「神のみことばである聖書は、いつでも、どのような時にでも届けられなければならない。先の大戦の最中、日系人が米国内のキャンプに収容された時、ABSは、わざわざ日本語新約聖書を印刷して、

「共に住むすべての人（ひと）に」を「一、九八八年から九六年まで、日本聖書協会が提供している『聖書特別頒布運動』のプログラムです。聖書協会は、聖書を皆さまにご提供するだけでなく、すべての人にみこころが届くよう、皆さまと共に、運動として、みこころをお届けする働きを提唱しています。

そして私たちの周りにも、まだ、神のみこころを「存じでない」方があふれています。「みこころ」は、具体的に「聖書」を、贈りましょう。九六年までの「聖書特別頒布運動」の締めくくりに、全教会、全クリスチャンの皆さまに呼びかけます。アジア諸国のために、聖書を贈りましょう。そして何よりも、あなたの身近な方々、あなたのお知り合いの方々に、ぜひ、聖書をお贈りください。

総主事室

聖書を贈りましょう

佐藤邦宏

例えば、日本で、海外で、数千万の若い人たちが、キリスト教式の結婚式を挙げています。それらの方々の手に、聖書をお届けし、神さまの祝福の内に、新しい生活を始めていきたいと思います。もし、あなたが親しいと思われる方が、まだ、みこころを「存じなかったら」、あなたが、神のみこころを中心、喜びをもって生きておられるあなたの生きざまが、まだ伝わっていないのです。その方に、ぜひ

真の喜びの日々を過ごしていたただけるよう神のみこころである聖書をお届けしましょう。

聖書は、私たちの思いをはるかに超えて、贈られた方々の力になります。その方々の方々の力になります。何よりも大きな贈り物になります。聖書をお届けすることは、神から与えられた、クリスチャンの光栄ある責任であります。（マタイ二八章一六節以下、テモテ一、四章二節など）

聖書と私

金 纓

エッセー

7

私の記憶のアルバムの中で一番最初のページに出てくるのは、母に聖書を読んでもらう場面である。ものごころついたころ気づくと、朝から晩まで、母が聖書の話をしていてくれた。今になって、なぜ母があんなにまで熱心に聖書の話をしたのか、時々不思議である。

母は高校の家庭科の教師だった。晩婚の母には私を筆頭に三人の子供がいたが、まるで子供たちに聖書をまるごと食べさせるような勢いで、創世記から黙示録まで、繰り返し、繰り返し語り続けたのである。

私が小学校に入ってから母も教師の仕事に戻ったので、以前のような集中講義は終わったのだが、それでも休みの時は必ず聖書の勉強をさせられた。今度はかなり長い聖句を暗誦しなければならなかったが、それはあまり苦にならなかった。

韓国のクリスチャンが全部母のように聖書を熱心に子供に教えているかどうかは分からない。たぶん母は最も熱心だったと思うが、他の人もかなり熱心に子供に聖書の話語り聞かせているのではないだろうか。

このようにして聖書に深く親しんできた私の頭の中に、小学校に入る前に既に聖書全体が入っていた。そして中学生になってからは自分で聖書を読むようになったが、これもわがオモニ(母)の「聖書にあらずば本にあらず」の信念に基づき、他の本は一切禁止された中で、唯一許された聖書を繰り返し繰り返し通読した。文学書を読んでいなかったことは今になって大きな痛手になっているが、聖書にこよなく親しんでいたことは、牧師として幸いだったと思っている。

私と同じく聖書を暗誦させられた妹は、一九七〇年代の韓国の民主化闘争の中で二年間獄

中生活をしたが、独房で全く周囲との一切の連絡が断絶された時、覚えていた聖句を思い出してはあの辛い孤独な独房での生活に堪えて生き抜くことができた、という。

身体で覚えた聖書は血となり肉となったが、神学校に入った時からそれまで信じていた素朴な聖書に対する思いが何度も崩れる思いがして、私の信仰もだいたい怪しくなった。私が神学を勉強していた時は、まだ韓国の長老派では女性を牧師に按手しなかったもので、「では私が最初の女性牧師になろう」と勇ましい決意をしていたのだが、卒業後早々と結婚したのはたぶんこのような挫折感が大きかったからかも知れない。

キリスト教は「言葉」を大事にする。私のように韓国語で聖書の大事な部分はほとんど暗記するほど読んでいた者にとって、言葉が日本語に変わったことはこの上ない打撃だった。

相当に日本語が使えるようになった今でも、聖句を早く探さなければならない時とか、説教の準備に忙しい時には、韓国の聖書を開くことにしている。その韓国語の聖書も私が国を離れてから共同訳に変わったのである。

言葉が変わったばかりではなく、日本の教会は韓国の教会と聖書の解釈というか、もっと厳密に言えば重点を置く所が違っていた。例えば韓国の教会は旧約が好きで、その中でも出エジプト記がよく説教のテキストになっていた。そしてエジプトで奴隷であったイスラエルの民と日本の植民地統治下で苦しんだ韓国人が同一視された。

新約になると日本の教会はパウロの手紙が好きで、中でも十字架の意味が深く取り上げられる。韓国教会は十字架よりも復活と聖霊が強調される傾向があると思う。このように言葉も内容も違う日本の教会で牧師をしている私の苦労は並大抵のものではない。

国の違いばかりではない。私はどういうわけか、世界のいろいろな国の人々と出会い、ラテンアメリカのキリスト教共同体では、貧しい人々が聖書を通して自分たちの貧しさから解放される読み方をするのに接することができた。またジュネーブのWCC(世界教会協議会)で女性神学担当のスタッフとして働く機会もあった。さまざまな人々の聖書の読み方を通して、私の聖書の世界は広く深くなっていたのは感謝に堪えない。



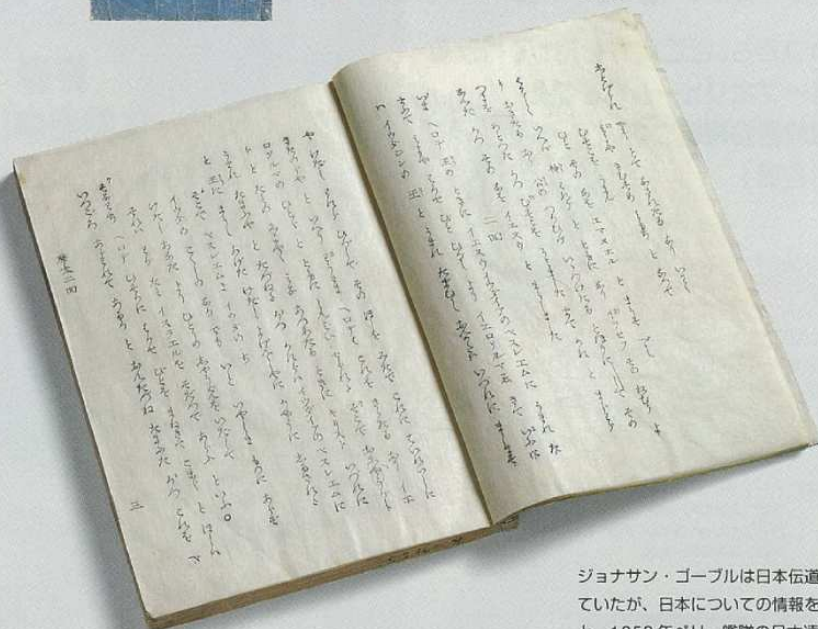
金 纓 (キム ヨン)
1948年、韓国釜山に生まれる。
世界教会協議会(WCC)スタッフを経て、
現在、日本キリスト教団豊島岡教会牧師。



聖書図書館蔵書シリーズ—⑥

ゴープル訳 摩太福音書と版本

横浜 1871(明治4)年刊
縦: 26.2cm 横: 18.7cm 木版刷り



ジョナサン・ゴープルは日本伝道を志していたが、日本についての情報を得ようと、1853年ペリー艦隊の日本遠征に志願して琉球に来たとき、宣教師ベッテルハイムに出会い、その熱烈な伝道の精神と聖書の和訳の仕事に影響され、日本伝道に献身する決意をする。

帰米後、ゴープルは神学を学び、再び1860年にバプテスト派宣教師として横浜に来日した。極貧のなかで伝道と日本語聖書の翻訳に情熱を傾け、キリスト教禁制下の1871年に『摩太福音書』は出版された。国内で出版された最初の聖書である。

版本3枚も所蔵するが、これは『聖書 新共同訳』完成のお祝いに、アメリカ聖書協会からヘボン・ブラウン訳の版本7枚とともに贈られたものである。



歴史接写

秋山憲兄

キリスト教文書センター理事長

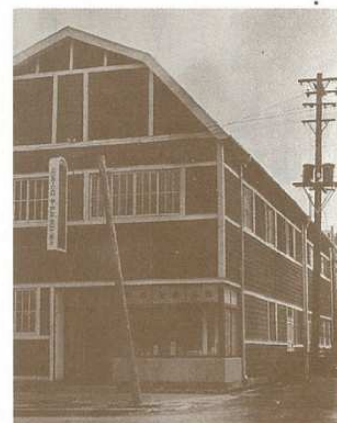
銀座のバイブル・ハウス

一八七六(明治九)年米国聖書会社(ABS)は横浜海岸四二番地に日本支社を設立し、一八七八年には神戸に分社を設置、聖書の出版と頒布の活動を全国的に始めた。

他方、北英国聖書会社(NBSS 一八七五)と大英国聖書会社(BFBS 一八七六)も相前後して横浜に日本支社を設けて、聖書事業を開始した。一八九〇(明治二三)年に、この三つの聖書会社は合同委員会を組織し、ABSの四二番地に大日本聖書館を建てた。

一九〇四(明治三七)年に合同委員会は、日本における聖書事業を東西に二分することになり、NBSSとBFBSは日本支社を神戸に移した。これに伴い、一九一九(大正八)年米国聖書会社は日本支社を東京に移した。大正八年六月発行の聖書の奥付によると、発行人は、日本支社副主幹のK・E・アウレル、発行所は、「東京市京橋区尾張町二丁目一番地 米国聖書協会」とある。

写真の「銀座の旧聖書館」は、この尾張町二丁



銀座の旧聖書館 1919(大正8)年

物で、当時としてはなかなかしゃれた建築であったと思われる。『日本聖書協会一〇〇年史』によると、現在の松坂屋付近とあるが、未確認である。しかしこの聖書館は、一九二三(大正一二)年九月一日の関東大震災のため全焼してしまった。同時に横浜の倉庫も、聖書を印刷していた銀座四丁目一番地の福音印刷会社も壊滅した。焼け跡にバラックを建てて復興に努めたという。

一九二六(大正一五)年メソジスト監督教会は教文館に寄付した銀座四丁目の一部(七三・五三坪)を米国聖書協会に譲渡した。この年は、ABS日本支社創立五十周年にあたっていた。

一九三一(昭和六)年この銀座四丁目五ノ一の地に、教文館と聖書協会共同ビルの建築を清水組に委託、設計者は当時モダニズム建築を促めたアントニオ・レイモンド。一九三三(昭和八)年二月一日ビル竣工。共同玄関に施された壁面装飾、回転式入口は当時としては斬新であった。

JBS History / Bible House in Ginza / Akiyama Norie

編集後記

「五」の上にも三年と年しますが、早いものでSOWBも四年目に入りました。年に一回の発行ですが、今号は第7号になります。人間に当てはめれば、やうと幼稚園の年少組に入園というところ、まだまだ、これからですね。

さて、今回から誌面をリニューアルいたしました。創刊から全面カラー印刷でしたが、一色刷りに変更、同時に二十ページを十六ページに減ページ。申し訳ございませんが、費用削減のためのやむなき処置としてご了承願います。

見た目には地味になりましたが、内容で勝負、今回の特集は、編集スタッフ自ら中国へ取材に。南京の印刷工場を中心に、教会、街並みの模様をお伝えできればと思っています。

「教しませう、しかし忘れませう」と言ったのは、故園聖来首唱でした。戦争の加害者として絶対に忘れてならない中国、韓国、アジア諸国。戦後五十年が間もなく幕を閉じようとしています。(一)

次号予告

(第8号) 1998年・6月1日発行予定
聖書と中国 / ベッテルハイム来沖150年

特集

● ソア 第7号 DECEMBER 1995
発行 財団法人 日本聖書協会
〒104 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3567-1980
FAX 03-3567-4436
郵便 03-3567-1841
振替 00160218410
表紙イラストレーション 本田年一
デザイン 株式会社ササノマ
写真 版下 株式会社メテオ
印刷 文島堂印刷株式会社